

灰の水曜日

福音朗読 マタイ 6・1-6、16-18

2022.3.2

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

この灰の水曜日のミサをもって、今年も四旬節が始まります。四旬節は回心の時です。何に向かっての回心かというと、わたしたちが信じている神様への、主イエス・キリストへの信仰に向かっての回心です。

このような日々の中で、ともすればわたしたちは自分が信じている神様に向かって心を向けることができない、そのことが非常に難しい今の時代の中に生きています。この先いつこのコロナ禍が治まるのか分からない、第三次世界大戦がささやかれるような今のウクライナの状況の中でその苦難の中にある人々、その人々を思うにつけて、わたしたちは先行きが見えない、むしろわたしの心を重苦しく圧迫する不安にさいなまれています。

自分たちが何をできるのか、そのことさえも本当には分からない、そうしようと思う心はあっても、どうしたらいいのかということも分からない、そのような状況の中で、わたしたちはせめて祈ろうと思うけれども、わたしたちの心に起こってくる様々な思いにさいなまれて、祈ることさえもできない。神様に心を向けることもできない。主イエス・キリストがわたしたちと共にいてくださるといふことさえも、わたしたちの心からどこかに行ってしまう。そのような不安と苦悩の中にわたしたちは置かれています。

今、わたしたちが回心すべきは、わたしたちが受け入れて信じている信仰に向かっての回心です。そのわたしたちの信仰を取り戻すことができたなら、この苦難の中にある世界、そこに生きるわたしたち全ての人々と共にいてくださりこの苦難を共に担っていてくださる、その苦難の先にわたしたちを導こうとしてわたしたちに先立って十字架の道を進みゆかれる主イエス・キリストに心を向けることができる。そのような信仰に向かっての回心を、わたしたちは今日から始まるこの四旬節の間、切に祈り求めたいと思います。

わたしたちの信仰がわたしたちを奮い立たせる、そのような力ある信仰となることを願って、この四旬節の日々を過ごしてまいりたいと思います。